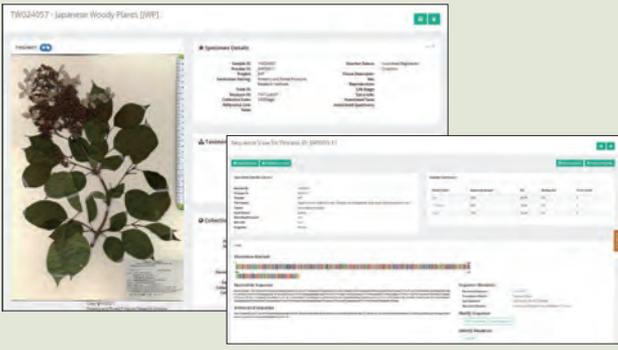


●日本産樹木種の70%以上を網羅するDNAバーコードライブラリーを公開

森林総合研究所と東北大学の研究グループは、日本在来の木本植物種（樹木やつる植物）のうち70%以上（800種以上）を網羅するDNA配列のデータベース「DNAバーコードライブラリー」を作成し、ForestONEで公開しました。これは、国内の生物分類群のなかで最も包括的なDNAバーコードライブラリーのひとつです。

DNAバーコーディングは、特定の遺伝子領域の塩基配列に着目して、DNAバーコードライブラリー

にある既知の種のDNA配列と照合することで、生物の種の同定を行う手法です。しかし、その実現のため



DNAバーコードライブラリーのデータ閲覧画面

には、生物種と塩基配列とが正しく対応づけられたデータベースが必須です。そこで、研究グループは、2008年から日本産木本植物を対象とした包括的なDNAバーコードライブラリーの作成に取り組んできました。

このDNAバーコードライブラリーを利用すれば、分類学の専門家だけでなく木本植物種の同定が可能になるほか、個体の一部や原形を失った組織からでも同定が可能になります。また、環境中より採取されたDNAからも同定が可能となるため、基礎研究だけでなく生態系保全や花粉症対策などさまざまな場面で活用できます。

●日本における外来リスの駆除に成功した5つの要因

外来リス野生化による農林業および生態系被害が世界各地で問題となるなか、国内4か所の駆除の成功事例には、専門家の積極関与や関係者ネットワークなど5つの要因があることがわかりました。これらの要因は国内外で対策を進める際の参考になる貴重な知見です。

国内で野生化している外来リスは、ペットとして一般的に飼育されているシベリアシマリス、農林業に大きな被害をもたらすクリハラリス、在来固有種への遺伝子浸透（雑種形成）が危惧されるキタリスの計3種で、クリハラリスとキタリスは駆除対象の「特定外来生物」に指定されています。

2022年9月までに公表された



日本における外来リス2種の分布地点：クリハラリス（左）キタリス（右）。4地点の成功事例は黒色、それ以外は橙色で示してある。

文献や現地踏査から、クリハラリスは13都府県17か所で、キタリスは2県2か所で定着が確認されました（図参照）。このうち、専門家が直接関与し、ほぼ根絶に成功した4か所について、導入経緯、生息状況、対策の手法や体制などを分析しました。

その結果、取組を成功させた要因は、①早い段階や個体数1万個体以下で捕獲対策に着手、②捕獲方法の選択・体制づくり・情報の解析・普及啓発に各分野の専門家が積極関与、③外来哺乳類に関連する学会から自治体など関係機関に対策推進を働きかけ、④学会からの要請に都道府県や市町村など自治体が迅速対応、⑤専門家・行政・市民を含む多

様な利害関係者によるネットワーク形成、の5つであることがわかりました。

●サクラ開花ビジュアルマッピング2023

森林総合研究所では、日本全国に配置されている支所等に植栽されている各種のサクラの開花情報をホームページ上で公開しています。

サクラの開花は南から北へと進んでいきますので、日々更新されていく画像から全国のサクラの開花状況を知ることができます。



3 すべての人に健康と福祉を

P.3, 8, 16

4 質の高い教育をみんなに

P.14

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

P.18

15 陸の豊かさも守ろう

P.3, 8, 14, 16, 18, 20



◀持続可能な開発目標 (SDGs)

森林総合研究所は、森林・林業・木材産業等の幅広い研究を通して、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に積極的に貢献しています。該当する目標と記事のページ数は、左記の通りです。

プレスリリース等の最新情報はこちらから→

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/index-r.html>

お問い合わせ

森林総合研究所
企画部 広報普及科 広報係

TEL 029-829-8372

Email kouho@ffpri.affrc.go.jp

